

金沢シーサイドタウンの活性化を目指し、 学生がパブリックスペース改善・活用計画を横浜市住宅供給公社に提案

横浜市立大学は、金沢シーサイドタウン^{※1}（横浜市金沢区並木1丁目）の郊外住宅地及び商店街の活性化を目的として、学生が地域住民向けのコミュニティスペースなどパブリックスペースの改善・活用方法を提案する発表会を、6月2日（金）に本学の金沢八景キャンパスで行います。

この取組は、国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース3年生の実習授業科目「まちづくり実習Ⅱ」前半課題^{※2}（担当教員：中西正彦^{※3}）として、人口減少や高齢化が進んでいる本地区を舞台に、郊外住宅地の活性化や商店街の賑わい創出に向け、パブリックスペースの改善・活用計画を「みんなが集まるセンターシーサイド」というコンセプトを掲げて進めているものです。本学が同商店街内の一画に「UDCN並木ラボ^{※4}」という地域拠点として平成26年3月から設置していることと、本学と横浜市住宅供給公社が本年2月に連携協定を締結したことから実現しました。

本学学生は、課題の設定、現地見学、地域住民へのヒヤリング、中間発表でのアドバイスなど、多くの方々にご協力いただきながら、プランづくりを進めてきました。発表会の中で特に優秀な学生提案企画には、横浜市住宅供給公社が賞を授与するとともに、そのコンセプトをベースとした同商店街内の地域拠点作りに活用します。当日は学生6チーム(36名)によるプレゼンテーションを行い、本学教員及び横浜市住宅供給公社の担当者より講評・審査いただきます。



（上）教員からパブリックスペースや（下）商店街会長から本地区に関する説明をうける学生たち

【概要】

日 時：平成29年6月2日（金）15：00～17：40（開場は14：30～）

場 所：横浜市立大学金沢八景キャンパス 文科系研究棟1階 ビデオホール（横浜市金沢区瀬戸22-2）

プログラム（予定）：

15:00～15:10	今回の課題とねらい（横浜市立大学国際総合科学部まちづくりコース准教授 中西正彦）
15:10～17:00	学生発表及び質疑応答
17:10～17:35	講評および審査発表
17:35～17:40	まとめ

※取材をご希望の方は、前日までに以下問い合わせ先にご連絡ください。

参考

※1 金沢シーサイドタウン

1965年に提唱された横浜市六大事業の一つとして、産業用地の創出等を目的として作られた埋立地に、既存市街地との緩衝・居住地確保のために整備されたまちです。センターシーサイド地区は、商店街（センターシーサイド名店会）や商業施設があり、金沢区並木1丁目のセンター地区として開発されました。また、隣接する「ふなだまり」とその周辺地区は、埋立地の中に残された貴重な水面のある公園として、住民の憩いの場となっています。

※2 実習授業科目「まちづくり実習Ⅱ」前半課題

前半（4～6月）は『パブリックスペース改善・活用計画！～みんなが集まるセンターシーサイド～』という課題で、屋内空間である「コミュニティスペース」、街路空間である「商店街の利用者空間」、水面を含む広場空間である「ふなだまり公園および公開空地」という3種類のパブリックスペースに対し、住民が集まり、同地区がいつそう魅力的になるための活用方法と空間的・物的なしつらえについて、改善計画提案を行います。

※3 中西 正彦 プロフィール

横浜市立大学国際総合科学群人文社会科学系列、准教授。国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース。博士（工学）。

東京工業大学工学部卒業。学術振興会特別研究員などを経て、2002年より東京工業大学助手（その後、助教）。2013年より現職。

専門は都市計画。特に土地利用コントロールに関する制度論・計画論。

※4 UDCN並木ラボ（UDCN…Urban Design Center Namikiの略）

横浜市立大学は、平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」選定取組として、環境未来都市構想推進を目的とした地域人材開発・拠点づくり事業を進めています。その中の取組の1つとして、サテライト拠点の設置・活用に取り組んでいることから、「UDCN並木ラボ」を設置しました。ここでは超高齢社会が抱える課題の解決に向け、他の地域のモデルになるような事業を検討・展開しており、「コミュニティの活性化」や「健康に暮らせるまちづくり」に取り組んでいます。



地域拠点「UDCN並木ラボ」の説明をうける学生。29年度に横浜市住宅供給公社が進めている大規模修繕に合わせて、地域の更なる活性化に向け、「UDCN並木ラボ」の移転・拡充も視野に入れて検討している。



中間発表で、教員らにプレゼンしている学生。



各班の議論のようす。